

現況分析における顕著な変化に ついての説明書

教 育

平成 2 2 年 6 月

秋田大学

目 次

6. 工学資源学研究科	1
-------------	---

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 秋田大学

学部・研究科等名 工学資源学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 進路・就職の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 関係者からの評価

平成 14 年に鉱山学研究科から工学資源学研究科に改組され、平成 16 年以降に工学資源学研究科の修了生を社会に送り出している。大学院の改組以降、大学院の修了生に対する企業からの求人数が多く、就職率は前期課程、後期課程ともほぼ 100%を維持している。このため、受入事業先の大学院教育に対する評価は高いと判断される。しかし、工学資源学研究科の現況調査表を作成した平成 19 年度時点では修了生の受入事業先に対し当研究科の大学院教育についてアンケート調査を実施しておらず、受入事業先からの評価を十分に把握していなかった。そこで、平成 21 年 5 月に過去 6 年間に当研究科の修了生が就職した 470 事業所に大学院教育に関するアンケートを郵送し、6 月末にアンケート回収した。アンケートの内容は、向上心、外国語能力、独創性、コミュニケーション能力など当研究科修了生の能力を問う設問、当研究科在学中に身に付けてほしい能力を問う設問、学部卒業生とは異なる期待する点を問う設問などから成る。アンケートは 131 事業所から回収された。アンケート結果では、当研究科の修了生は専門的能力や課題解決能力に優れ、組織的行動力ができる等の評価を得ており、特に、「向上心に富み、常に新しい知識・技術を吸収しようとする姿勢がみられる」という項目で、肯定的な回答が 80%となっており、修了生の各能力に対する評価は高いことが示唆されている。このようなことから、当研究科の大学院教育は修了生を受け入れている事業所からの期待に十分応えていると判断され、また、このアンケート調査により当研究科の大学院教育に対する要望が明らかにされ、今後大学院教育を改善する指針が得られた。